

口永良部島の火山活動解説資料（平成 23 年 7 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

平成 21 年 10 月 30 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 7 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 5）

新岳火口内では噴気活動が続いており、白色の噴煙が火口縁上概ね 200m 以下（最高高度は 400 m）で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 1、図 3）

火山性地震の月回数は 46 回（6 月：44 回）と少ない状態で経過しましたが、25 日には 33 回と一時的に増加しました。火山性地震の震源はこれまでと同様、主に新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

火山性微動の継続時間の月合計は 15 分（6 月：17 分）と、少ない状態で経過しました。

・地殻変動の状況（図 1、図 2）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜－SDW（産）の基線で 2010 年 9 月ごろから緩やかな伸びの傾向が続いています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 8 月分）は平成 23 年 9 月 8 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

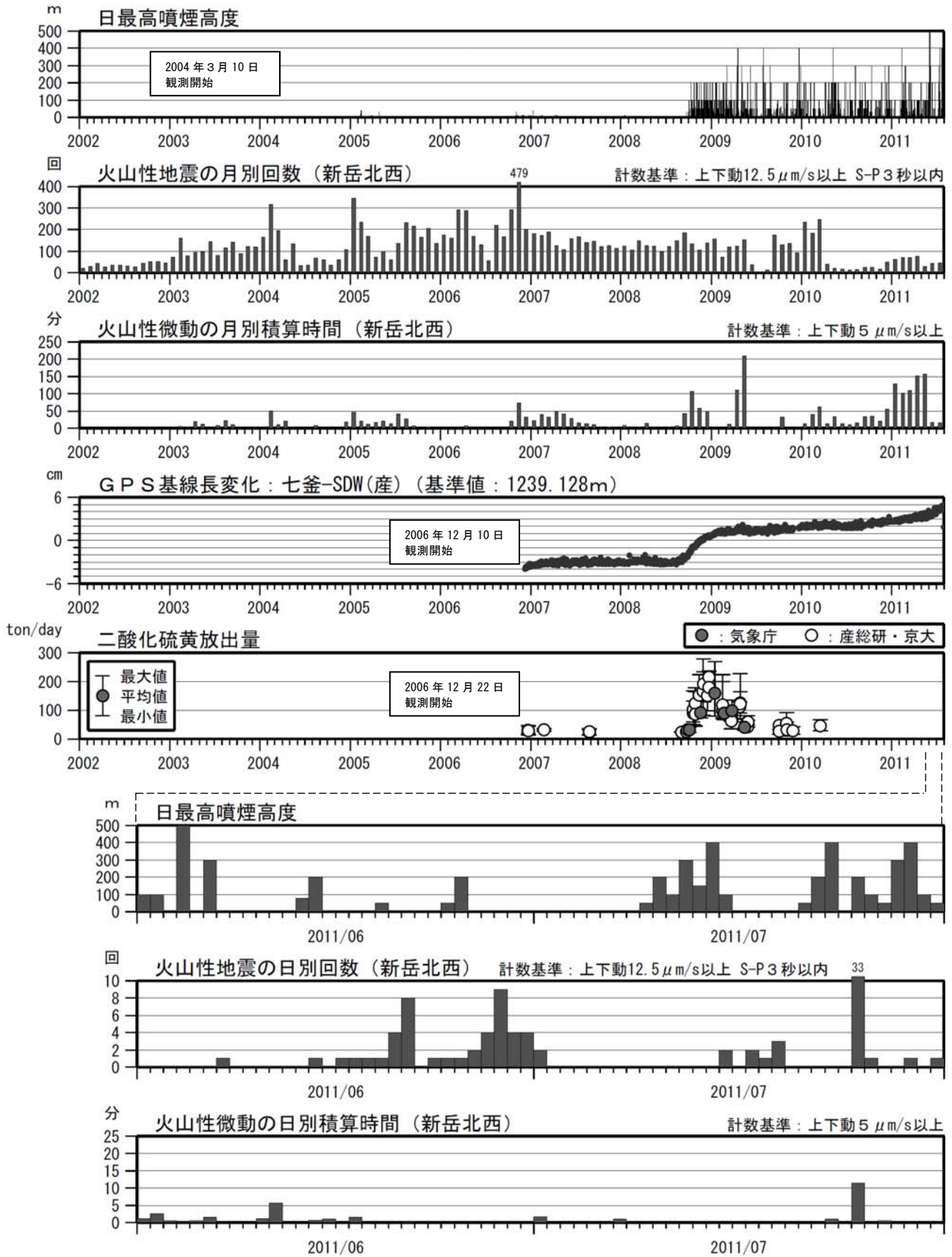


図1 口永良部島 火山活動経過図（2002年1月～2011年7月）

<7月の状況>

- ・新岳火口内では噴気活動が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m以下（最高高度は 400 m）で経過しました。
- ・火山性地震の月回数は46回（6月：44回）と、少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動の継続時間の月合計は15分（6月：17分）と、少ない状態で経過しました。

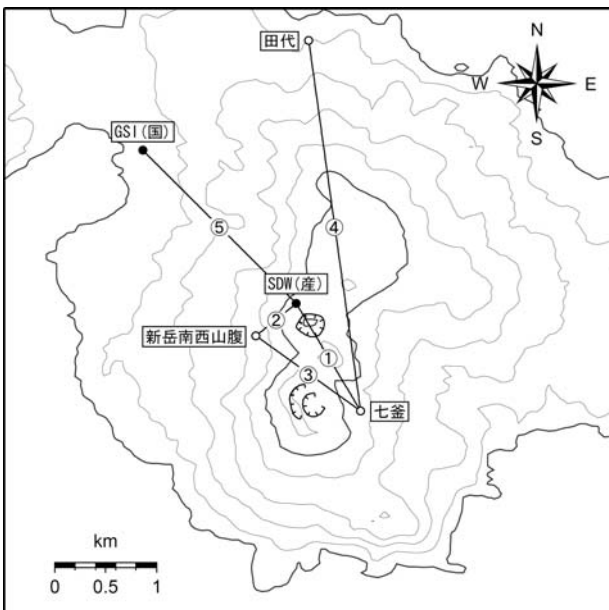
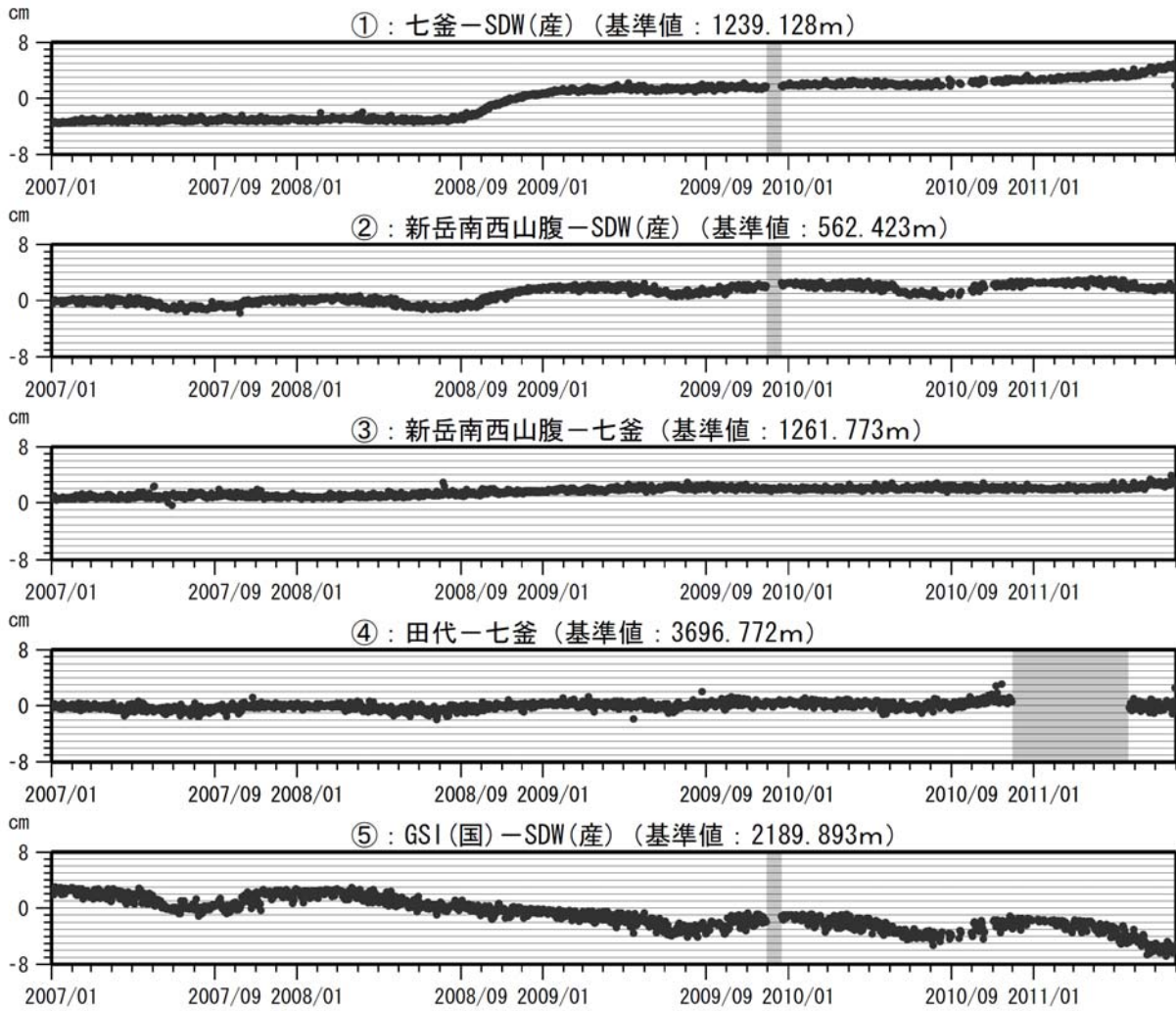


図2 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化（2007 年 1 月～2011 年 7 月）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜-SDW（産）の基線で 2010 年 9 月ごろから緩やかな伸びの傾向が続いています。

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院、（産）：産業技術総合研究所

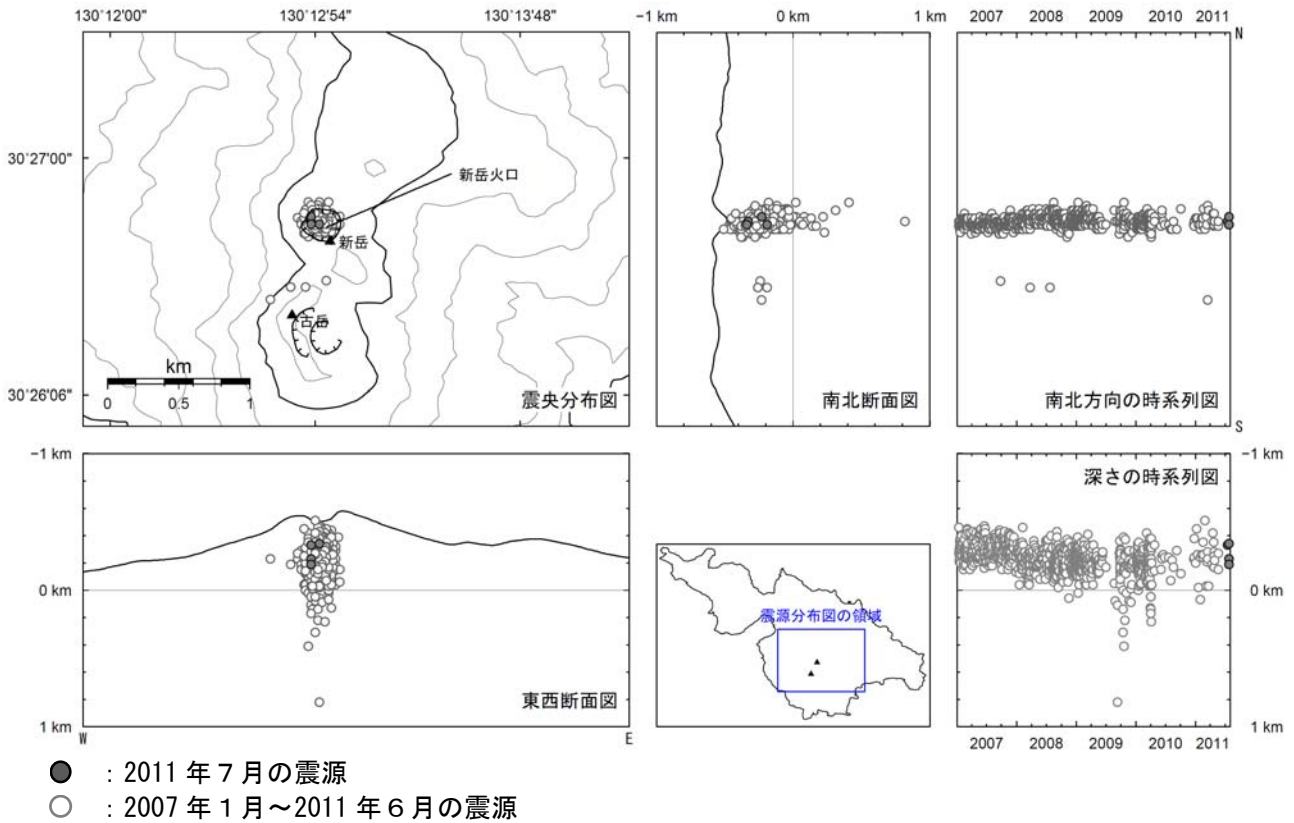


図 3※ 口永良部島 震源分布図（2007 年 1 月～2011 年 7 月）
 < 7 月の状況 >

火山性地震の震源はこれまでと同様、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

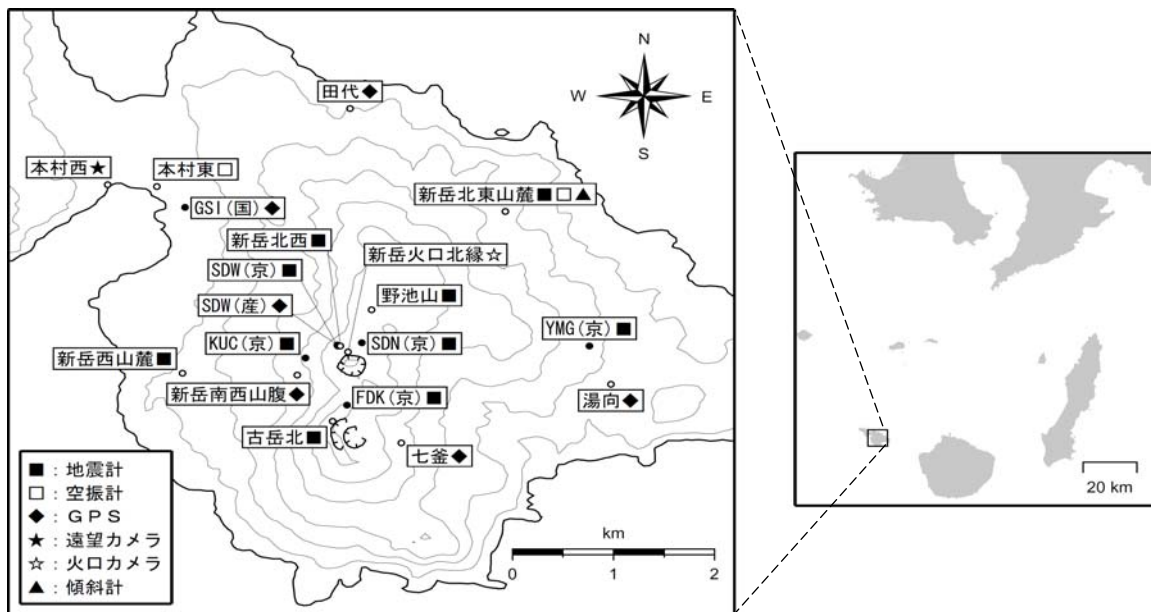


図 4 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所



図5 口永良部島 噴煙の状況（7月23日、本村西遠望カメラによる）